

## 難聴児（者）を持つ保護者へのアンケート

近年、社会において難聴児（者）を取り巻く環境は大きく変化しており、難聴児支援に対する注目が高まっています。令和3年に厚生労働省が実施した障害者総合福祉推進事業「難聴児の療育や難聴児・者及びその家族等への支援にあたって必要とされる情報発信及び専門人材の養成に関する調査」では、調査委員であった全国難聴児をもつ親の会に対しヒアリングが行われました。ヒアリング資料の作成のために全国の難聴児保護者からアンケートにて意見を募り、親の思いを伝えました。これを受けて、情報発信についてさらに調査が進み、また、さまざまな地域や現場で専門人材との連携が意識されているのは嬉しい変化です。

しかし、アンケート調査の結果からはまだまだ多くの課題が残されているとわかりました。そのため、今回、有志によって、より包括的なアンケートを行い、難聴児（者）とその保護者の現状と課題を把握し、親の願いとしてまとめ、行政等に働きかけていきたいと考えています。ご協力よろしくお願ひいたします。

武蔵野大学人間科学部 教授 北 義子

全国難聴児をもつ親の会 小森谷晴代

※アンケートは無記名でオンラインのみで実施します。個人が特定できない形式で集計し、集計結果は全国難聴児をもつ親の会で公開され、行政への働きかけの資料や関連する学会（日本コミュニケーション障害学会、日本語聴覚学会、日本音声言語医学会等）での発表や論文作成に使用されます。回答は自由参加で、途中で中断することが可能です。

※アンケートの所要時間は30分～90分程度です（お子さんの年齢によって変わります）。お時間に余裕がある折にご協力ください。

なお、googleアカウントから回答した場合は、アンケートを中断しても30日間は回答内容が保存されます。再度アンケートを開くと質問の表示は最初のページに戻りますが、回答は保存されていますので、前回分をスクロールしてから回答を続けてください。すべての回答が終わったら「送信」を押してください。一度送信してしまうと、見直しや修正はできませんのでご注意ください。

<アンケートについてのお問い合わせ先>

武蔵野大学人間科学部 畠山恵 e-mail: [m\\_hatake@musashino-u.ac.jp](mailto:m_hatake@musashino-u.ac.jp)

※アンケートにご協力いただける場合には、以下の研究同意を選択して、回答を始めてください。

難聴のお子さん一人につき、一人の保護者の方が回答をしてください。

\*

私は上記の説明を読み、アンケートに協力することに同意します。  
同意しません。

1 現在の保護者の方の居住地とお子さんの障害について伺います。  
昨年実施したアンケートの結果に、地域格差をなくして欲しいという意見がありました。地域の格差の実態を調べるために居住地について回答をお願いします。

(1) あなたの年齢を教えてください。\*

- 20歳未満
- 20歳代

30歳代  
40歳代  
50歳代  
60歳代  
70歳以上

(2) お子さんとの続柄を教えてください。\*

父  
母  
祖父母  
その他...

(3) 現在お住まいの都道府県及び市町村を教えてください。例 埼玉県熊谷市\*

(4) お子さんが生まれてから今までに引っ越しをしましたか。\*

した  
していない

(5) 【質問(4)で引っ越しをしたと回答された方のみお答えください】いつどこからどこへ引っ越ししましたか。

例 2歳の時に埼玉県加須市から千葉県市川市

(6) 【質問(4)で引っ越しをしたと回答された方のみお答えください】引っ越した理由を記入してください。

よりよい医療を受けるため  
よりよい教育を受けるため  
よりよい療育を受けるため  
福祉制度が充実している地域  
祖父母など育児の協力者の近く  
家庭の都合(難聴以外の理由)  
その他...

7) お子さんの性別\*

男  
女  
その他...

(8) お子さんの現在の年齢\*

0歳以上～3歳未満  
3歳以上～6歳未満  
6歳以上～12歳未満  
12歳以上～15歳未満  
15歳以上～18歳未満  
18歳以上～22歳未満  
22歳以上～30歳未満  
30歳以上～40歳未満  
40歳以上～50歳未満  
50歳以上～60歳未満  
その他...

9) お子さんの聴力について伺います。\*

～19dB(正常)	20～39dB	40～59dB	60～69dB	70～89dB	90～99dB
100～109dB	110dB～	不明・わからない			
右耳					
左耳					

(10) 難聴の原因について知っていますか。\*

はい  
いいえ

(11) 難聴の原因を知るための検査(遺伝子検査など)を受けましたか。\*

はい  
いいえ

(12) 身体障害者手帳についてお聞きます。\*

1級  
2級  
3級  
4級  
6級  
もっていない  
わからない

(13) 現在お使いの補聴機器はなんですか?\*

\* 一側で両方使用している場合はメインで使用している機器を教えてください。

補聴器	人工内耳・EASなど	装用していない
右耳		
左耳		

(14) 補聴器を装用されている場合には、装用した年齢をお書きください。

記入例: 右耳 歳 ヶ月  
左耳 歳 ヶ月

(15) 人工内耳を装用されている場合には、手術された年齢をお書きください。

記入例:右耳 歳 ヶ月  
左耳 歳 ヶ月

(16)お子さんのコミュニケーション手段について伺います。\*

口話のみ

手話のみ

口話と手話

その他...

17) 親のための団体に入っていますか。\*

- 入っている
- 入っていない
- 以前は入っていたが やめた
- 親のための団体があることを知らない

(18) 【「入っている」「入っていたが やめた」と回答した方に伺います。】

入っている/入っていたがやめた団体名を教えてください。( 団体が複数の場合、全ての団体名を記入してください。)

(19) 【「入っていない」「入っていたが やめた」と回答した方に伺います。】その理由を教えてください。(複数回答可)

- 経済的理由
- 活動が負担
- 役員になることが負担
- 活動に魅力を感じない
- 近いところに親の会がない
- 親の会がなくなった(解散した)
- その他...

2 難聴のお子さんのきょうだいについて伺います。

きょうだいは、難聴のお子さんの兄、弟、姉、妹のことです。

(1) 難聴のお子さんにきょうだいはいますか。\*

- いる
- いない
- きょうだいに関する質問

(2) きょうだいを育てるにあたって問題や困難がありましたか。(複数回答可)\*

- 困ったことはない
- 病院や療育に通う時、きょうだいを預かってもらう人や施設がみつからなかった
- きょうだいと関わる時間が少なくさみしい思いをさせてしまった
- 療育に専念するために収入が減り、きょうだいを習い事等に通わせることができなかった
- 難聴という障害について理解してもらうのが大変だった
- 療育等できょうだいの学習参観や学校の行事を欠席することがあった
- その他...

(3) きょうだいを育てるためにほしかった支援はなんですか。(複数回答可)\*

- 特に思い当たることはない
- きょうだいの保育園への入園(療育に専念するために)
- きょうだいの学童への入所(療育に専念するために)
- 経済的支援
- きょうだいへの直接的な支援
- SODA(難聴児きょうだい)の会や親の会などのイベント情報
- その他...

3 難聴と診断された時のことを伺います。

難聴の発見が片耳ずつの場合には、最初に難聴が診断されたときについてお答えください。

(1)乳幼児期や診断前後の時期にお子さんが聞こえにくい・聞こえないことによって以下のようなことを感じましたか。(複数回答可)\*

- とくに何も気にならなかった
- あなたが呼び掛けても反応が少なかった
- あなたと視線があいにくかった
- あなたが、子どもとうまくかかわれなかった
- あなたといっしょに音楽や声や物音に喜んだり、驚いたりすることが少なかった
- あなたが周囲の状況に常に注意していないと危険だった
- 手がかからなかった
- 放っておいてもあまり泣いたりしなかった
- よく寝てくれて助かった
- あやしてもあまり笑わなかった
- 気持ちが伝わりにくい、伝わらない、子どもとのつながりを感じにくいと思った
- 可愛いとあまり思えなかった
- 甘え泣きをしなかった
- その他...

(2)お子さんが難聴と診断されたきっかけを伺います。(複数回答可)\*

- 新生児聴覚スクリーニング検査
- 聞こえにくそうだと感じた
- 子どものかかわりの中で違和感があった
- 言葉の発達の遅れが気になった
- 1歳半検診で保健師から
- 3歳～3歳半検診で保健師から
- 小学校入学前に行う就学時健康診断の聴力検査の結果から
- 保育園や幼稚園の先生から
- 祖父母や身近な親族から
- 聴覚に障害のある家族がいる
- その他...

(3)難聴と診断されたときに困ったことはなんですか。(複数回答可)\*

- 困ったことはなかった
- どこに相談したらよいか分からなかった
- 医療機関から受けた新生児聴覚検査などの説明がわかりにくく不安だった
- 経済的な不安があった
- 将来の見通しが持てず不安だった
- 養育者のライフプランを変更しなければならなかった
- その他...

(4)難聴と診断された時に相談した相手は誰ですか。(複数回答可)\*

- 誰にも相談しなかった/できなかった
- 相談先が分からなかった
- 区市町村の保健センターの保健師
- 療育機関の担当者(ST等)
- 幼稚園の担任の先生・保育園の保育士
- ろう学校の乳幼児相談の担当者
- 医療機関の担当者
- 親の会の相談担当者
- 家族・親戚・友人など
- インターネット
- その他...

(5)難聴と診断された時に支援が必要ですか。\*

- 支援は必要
- 支援は必要ない
- 分からない

(6)難聴と診断されたときに、どのような支援を受けましたか。また、支援を受けたか否かにかかわらず、特に必要だと思う支援はどれですか(複数回答可)。

受けた                      特に必要だと思う

- 保護者の心理的ケア
- 具体的な情報のわかるパンフレット等の資料
- 難聴に関するわかりやすい医学的情報の提供
- 療育・教育機関についての情報の提供
- 身体障害者手帳等福祉に関する情報の提供
- 行政に提出する書類等がスムーズに手続きを済ませられるような助言
- 保健師等の訪問支援
- 障害程度が同じ仲間・先輩との出会い(難聴児を持つ親の会、人工内耳の会等)
- ろう者に会うことやろう文化の情報
- きょうだいへの支援(SODAの会や親の会の支援)
- 手当支給などの経済的支援
- 正規・非正規に関わらず療育しながら働き続けられる制度

(7) その他、難聴と診断されたときに、必要だと思う支援があれば、教えてください。

(8) 難聴の診断はいつされましたか。\*

- 0ヶ月以上～1ヶ月未満
- 1ヶ月以上～2ヶ月未満
- 2ヶ月以上～3ヶ月未満
- 3ヶ月以上～6ヶ月未満
- 6ヶ月以上～1歳未満
- 1歳以上～2歳未満
- 2歳以上～3歳未満
- 3歳以上～6歳未満
- 6歳以上

(9) 難聴と診断されてから、身体障害者手帳の取得までにかかった期間はどのくらいですか。\*

- 手帳には該当しなかった
- 手帳取得の権利はあったが取得しなかった
- 現在申請中
- 1ヶ月以上～3ヶ月未満
- 3ヶ月以上～6ヶ月未満
- 6ヶ月以上～1年未満
- 1年以上
- わからない

(10) 身体障害者手帳の取得について困っていることや改善してほしいことがあれば記入してください。

(11) 難聴と診断されてから、はじめに補聴器を装着・購入するまでどのくらいかかりましたか。(補聴器を装着しなかった方は、次に進んでください。)

- 手続き中
- 1ヶ月未満
- 1ヶ月以上～3ヶ月未満
- 3ヶ月以上～6ヶ月未満
- 6ヶ月以上～1年未満
- 1年以上

- 補聴器の装用
- 補聴器の購入

(12) 難聴と診断されてから療育が始まるまでどのくらいかかりましたか。\*

- 経過観察のみで、療育はない
- わからない
- 1ヶ月未満
- 1ヶ月以上～3ヶ月未満
- 3ヶ月以上～6ヶ月未満
- 6ヶ月以上～1年未満
- 1年以上

療育について

(13) 主に療育に関わっている/いたのはどなたですか。\*

- 母
- 父
- 祖父母
- その他...

(14) お子さんの難聴発見前、主に療育に関わっている/いた方の就労の状況はどのようなものでしたか。\*

- 正規雇用
- パート
- 自営業
- 家事、育児に専念
- その他...

就労

(15) 難聴と診断された後、就労の状況に変化はありましたか。\*

- はい
- いいえ

16) どのように変化しましたか。

- 仕事をやめた
- 休職した
- 短時間労働にした(パート・時短勤務など)
- 転職をした
- その他...

労働時間短縮

(17) 労働時間を短くした理由をお答えください。

(18) 療育のために短縮した労働時間を元に戻しましたか。

- はい
- いいえ

時短を元に戻した方

(19) お子さんが何歳の時に労働時間を元に戻しましたか。

- 2歳以下
- 3歳
- 4歳
- 5歳
- 6歳

- 7歳
- 8歳
- 9歳
- 10歳
- 11歳
- 12歳
- 13歳
- 14歳
- 15歳
- 16歳以上

(20) 労働時間を戻したきっかけは何ですか。(複数回答可)

- 経済的事情のため
- 子どもの療育にかかる時間が減ったため
- 自分のライフプランを考えて
- その他...

転職した方

(21) 転職した理由をお答えください。

休職・退職にした方

(22) 仕事をやめた／休職した理由をお答えください。

(23) 再就職／仕事復帰をしましたか。

- はい
- いいえ

(24) お子さんが何歳の時に再就職／仕事復帰しましたか。

- 2歳以下
- 3歳
- 4歳
- 5歳
- 6歳
- 7歳
- 8歳
- 9歳
- 10歳
- 11歳
- 12歳
- 13歳
- 14歳
- 15歳
- 16歳以上

(25) 再就職／仕事復帰をしたきっかけは何ですか。(複数回答可)

- 経済的事情のため
- 子どもの療育にかかる時間が減ったため
- 自分のライフプランを考えて
- その他...

(26) 再就職／仕事復帰されたときの就労の状況はどのようなものでしたか。

- 正規雇用(フルタイム)
- 正規雇用(時短勤務)
- パート
- 自営業
- その他...

(27) 再就職／仕事復帰する時に困ったことはありましたか。

(28) 過去に復職を希望したができなかった、また現在復職を希望しているが復職できない方に伺います。復職するうえで困難に感じることや大変なことを記入してください。

療育

(29) 療育が始まったことにより生活にどのような負担がありましたか。

- 自分の時間が無くなった
- 家事をする時間が減った
- 祖父母や近所の人に頼ることが増えた
- 家事サービスを使うようになった/使う頻度が増えた
- その他...

4 お子さんの就学までのことを伺います。

(1) お子さんが就学前に受けている／いた療育機関について伺います。(複数回答可)\*

- 療育を受けていない
- ろう学校の乳幼児相談
- ろう学校の幼稚部
- 難聴通園施設・療育センター
- 病院で運営している療育施設
- 病院、クリニック等
- その他...

- (2) お子さんが就学前に通っている／いた療育機関名・学校名をすべて教えてください。  
 (3) 就学前の子育て全般で困った時に相談した相手は誰ですか。  
 難聴児とそのきょうだいについて、それぞれお答えください。

難聴児                      きょうだい

相談しなかった／できなかった  
 区市町村の保健センターの保健師  
 療育機関(難聴児通園施設／児童発達支援センター)の担当者(ST等)  
 幼稚園の担任の先生・保育園の保育士  
 ろう学校教育相談の担当者  
 医療機関の担当者  
 親の会の相談担当者  
 難聴児を持つ親 パパ友・ママ友、先輩パパ・ママ  
 家族・親戚・友人など  
 その他

- (4) 就学前に支援が必要ですか。

支援は必要  
 支援は必要ない  
 わからない

- (5) 就学前に受けた／受けている支援についてお答えください。また、支援を受けたか否かにかかわらず、特に必要だと思う支援はどれですか。(複数回答可)

受けた                      特に必要だと思う

個別のコミュニケーション・言語指導  
 難聴児グループ指導  
 幼稚園・保育園での集団生活  
 病院と療育機関や学校、地域の連携支援(指導方法や検査結果の共有)  
 手話・口話などコミュニケーションに関する情報  
 わかりやすい医学的情報の提供  
 療育・教育機関についての情報の提供  
 身体障害者手帳等福祉に関する情報の提供  
 正規・非正規に関わらず療育しながら働き続けられる制度  
 保護者への経済的支援  
 障害程度が同じ仲間・先輩との出会い(難聴児を持つ親の会、人工内耳の会等)  
 きょうだいの問題(SODAの会や親の会での支援)  
 ろう者に会うことやろう文化の情報  
 オンラインでの個別・グループ指導

- (6) その他、就学前に必要なと思う支援があれば、教えてください。  
 (7) お子さんが就学前に家の近所で遊ぶ友達がいます／いましたか。\*  
 たくさんいる／いた  
 遊ぶ友達は限られている／いた  
 いない／いなかった  
 わからない

## 5 お子さんが小学校の頃のことを伺います。

個別の支援計画の作成は、平成21年に義務化されるようになりました。  
 合理的配慮については、平成25年に施行された障害者差別解消法で、「不当な差別的取り扱い」を禁止し、「合理的配慮の提供」を求めています。  
 今までの個別の支援計画の中に、「合理的配慮」という項目が加わり、保護者との合意形成のもとで個別の支援計画と指導計画が作成されるようになりました。

あなたのお子さんは小学生以上でしょうか？\*

就学前  
 小学生以上である

小学生の頃についての質問

- (1) お子さんが通っている／いた小学校について伺います。なお、途中で転校をした場合、「その他」を選択し、転校したことを記入してください。\*

例: ろう学校から地域の小学校に転校  
 私立学校と通級指導教室(きこえ・ことばの教室)

地域の公立小学校  
 地域の公立小学校と通級指導教室(きこえ・ことばの教室)  
 地域の公立小学校の特別支援学級(難聴学級)  
 私立小学校  
 ろう学校の小学部  
 その他...

- (2) お子さんが困ったときに保護者であるあなたは誰に相談します／したか。(複数回答可)\*

困ったことはない  
 相談する相手がいない／いなかった  
 困っている／いたかどうかわからない  
 小学校(小学部)の担任の先生  
 小学校(小学部)の特別支援コーディネーター、教育相談担当者



保健室の先生(養護教諭)  
通級指導教室(ことばの教室)・難聴学級の担当者  
医療機関の担当者(ST)  
就学前に通園していた療育施設のST  
放課後デイサービスの担当者  
親の会の相談担当者  
難聴児を持つ親 パパ友・ママ友、先輩パパ・ママ  
家族・親戚・友人  
その他...

(3) お子さんの個別の教育支援計画を知っていますか。\*

知っている  
知らない

(4) お子さんへの必要な支援(合理的配慮等)についてクラス担任や特別支援コーディネーターと話し合いましたか。  
\*  
話し合った  
話し合っていない

(5) 小学生のときに支援は必要ですか。\*

支援は必要  
支援は必要ない  
わからない

(6) 小学生のときに 受けた/受けている支援についてお答えください。 また、支援を受けたか否かにかかわらず、特に必要だと思う支援はどれですか。(複数回答可)

この質問の支援内容については、文部科学省の「合理的配慮」の観点(聴覚障害)を参考にして作成しているため、項目数が大変多くなっておりますが、現状把握のために御協力をお願いします。

受けた 特に必要だと思う

教師の話聞きやすい座席の位置  
字幕放送(ビデオ)などの活用  
PCなどを活用した情報保障の活用  
行事などにおける進行次第や、挨拶文などが文字で投影できるシステムの整備  
子どもの聴覚障害の状態に応じたコミュニケーション手段の選択と活用  
周囲の子どもに聴覚障害の理解啓発を促すための指導  
聴覚に障害のある子ども同士との交流の場や機会の確保  
外国語のヒアリングなどにおける音量調整・学習室の変更・文字による代替問題の用意  
経験したことを日記・作文などにまとめる  
話合いの内容を確認するため書いて提示し読ませる  
慣用句など言葉の表記と意味が別の言いまわしになる言葉の取り立て指導  
分かりやすい板書  
教科書の音読箇所での位置の明示  
授業の流れが分かるワークシートなどの準備  
授業の要点をプリントにしたものを提供  
ノートテイク  
講演会や行事等の手話通訳  
教師やクラスメイトによる多様なコミュニケーション手段の使用  
話者の音量調整  
防音などに配慮した教室環境の提供  
集会や授業などでのマイクなどの使用  
教室前のスクリーンでのライブ字幕表示  
必要に応じて補聴援助システム(ロジャーやFM補助機器、磁気ループ)などの使用  
ドアの開閉音など、他者が迷惑に感じることなどの指導(気づきにくい音を知らせる)  
教科書などの音読の練習  
九九の発音などの予習復習時間の確保  
個別指導場所の確保  
運動競技でホイッスルの警告音を、手旗やライトなどで視覚的に表示  
相手に応じて伝わりやすいコミュニケーション手段が使える力の育成  
情報を伝え、それまでの流れなどから物事を総合的に判断する経験を積ませる  
実際の場面を想像し、相手の気持ちになって、どう行動すべきかを考えさせる  
聴覚障害のある友人、先輩との交流の場などを積極的に活用し、自己の障害理解を促す  
自立と社会参加のための一貫したキャリア教育(就労に向けた教育)  
同年齢の集団での交流及び共同学習の機会を積極的に設定  
ろう学校との連携(積極的な活用)  
通級指導教室(ことばの教室)・難聴特別支援学級との連携(積極的な活用)  
難聴児童対象のサマーキャンプ、交流会、学習会など  
聴覚障害について、学校の指導場面で教職員・子ども・保護者・地域の理解啓発に努める  
関係機関や外部専門家等(耳鼻科、補聴器店、親の会、聴覚障害者協会など)との連携  
緊急放送を視覚的に知らせる人の動き、避難誘導など、校内体制  
字幕放送を受信することができるシステム(デジタルテレビ)  
行事の進行次第や、挨拶文、劇の台詞などが文字で投影できるシステム  
机・椅子の脚へのノイズ対策のための使用済みテニスボールの利用  
絨毯・畳の指導室

防音・遮音式の個別指導教室や通級指導教室

- (7) その他、小学生の時に必要だと思う支援があれば、教えてください。
- (8) お子さんが小学生の時は、仲の良い友達はいました/いますか。  
たくさんいる/いた 遊ぶ友達は限られている/いた いない/いなかった  
まだその学年になっていない わからない

低学年

中学年

高学年

- (9) あなたからみて、小学校在学中のお子さんにどのような困りごとがあります/ましたか。(複数回答可)\*

困りごとはない/なかった

担任の理解がない/なかった

友達の理解がない/なかった

授業だけでは分からないので、他で学習する必要がある/あった

友達とコミュニケーションがとれず、トラブルが多い/多かった

放課後遊ぶ友達がいない/いなかった

家庭内でコミュニケーションがとれず孤立している/いた

その他...

- (10) 小学校在学中に要望したいことはありますか。(複数回答可)\*

要望はない

聴覚障害児向けの放課後等デイサービス

校内に難聴学級や通級指導教室を作って欲しい

難聴学級やろう学校への送迎サービス

難聴学級在籍児童の交流学級での学習時間や体制は、子どもの状況に応じて柔軟に対応して欲しい

通級指導教室での学習内容は、子どもの状況に応じて柔軟に対応して欲しい

地域の小学校に通う難聴児や保護者への聴覚障害に関する情報提供

子育てや療育のための保護者の休暇制度

専門知識のある教員の育成と増加

難聴児が在籍する全ての小学校で専門家(ST等)の支援を受けられるようにしてほしい

専門家の支援のもとで、難聴(聴覚障害をもっている)の児童が集まる機会・行事

オンラインでの個別・グループ指導

その他...

## 6 お子さんが中学生の頃のことを伺います。

あなたのお子さんは中学生以上ですか。

小学生

中学生以上

中学生の頃についての質問

- (1) お子さんが通っている/いた中学校について伺います。なお、途中で転籍した場合、「その他」を選択し、転籍したことを記入してください。\*

例:ろう学校から地域の中学校に転籍

地域の公立中学校

地域の公立中学校と通級指導教室(きこえ・ことばの教室)

地域の公立中学校の特別支援学級(難聴学級)

私立中学校

ろう学校の中学部

その他...

- (2) お子さんが困ったときに、保護者であるあなたは誰に相談します/しましたか。(複数回答可)\*

困ったことはない

相談する相手がいない/いなかった

困っている/いたかどうかわからない

中学校(中学部)の担任の先生

中学校(中学部)の特別支援コーディネーター、教育相談担当者

保健室の先生(養護教諭)

通級指導教室(ことばの教室)・難聴学級の担当者

医療機関の担当者

就学前に通園していた施設のST

部活動の顧問

親の会の相談担当者

その他...

- (3) お子さんの個別の教育支援計画を知っていますか。\*

知っている

知らない

- (4) お子さんへの必要な支援(合理的配慮等)についてクラス担任や特別支援コーディネーターと話し合いましたか

。

話し合った

話し合っていない

- (5) 中学生のときの支援について伺います(複数回答可)。\*

支援は必要  
支援は必要ない  
支援は受けていない  
必要な支援が分からない  
支援を受けていたが、その内容まではわからなかった

(6) 中学生のときに 受けた／受けている支援についてお答えください。また、支援を受けたか否かにかかわらず、特に必要だと思う支援はどれですか。(複数回答可)

この質問の支援内容については、文部科学省の「合理的配慮」の観点(聴覚障害)を参考にして作成しているため、項目数が大変多くなっておりますが、現状把握のために御協力をお願いします。

受けた

特に必要だと思う

教師の話聞きやすい座席の位置  
字幕放送(ビデオ)などの活用  
PCなどを活用した情報保障の活用  
行事などにおける進行次第や、挨拶文などが文字で投影できるシステムの整備  
子どもの聴覚障害の状態に応じたコミュニケーション手段の選択と活用  
周囲の生徒に聴覚障害の理解啓発を促すための指導  
聴覚に障害のある生徒同士の交流の場や機会の確保  
外国語のヒアリングなどにおける音量調整・学習室の変更・文字による代替問題の用意  
経験したことを日記・作文などにまとめる  
話合いの内容を確認するため書いて提示し読ませる  
慣用句など言葉の表記と意味が別の言いまわしになる言葉の取り立て指導  
分かりやすい板書  
教科書の音読箇所位置の明示  
授業の流れが分かるワークシートなどの準備  
授業の要点をプリントにしたものを提供  
ノートテイク  
講演会や行事等の手話通訳  
教師やクラスメイトによる多様なコミュニケーション手段の使用  
話者の音量調整  
防音などに配慮した教室環境の提供  
集会や授業などでのマイクなどの使用  
教室前のスクリーンでのライブ字幕表示  
必要に応じて補聴援助システム(ロジャータンやFM補助機器、磁気ループ)などの使用  
ドアの開閉音など、他者が迷惑に感じることなどの指導(気づきにくい音を知らせる)  
教科書などの音読の練習  
個別指導場所の確保  
運動競技でホイッスルの警告音を、手旗やライトなどで視覚的に表示  
相手に応じて伝わりやすいコミュニケーション手段が使える力の育成  
情報を伝え、それまでの流れなどから物事を総合的に判断する経験を積ませる  
実際の場面を想像し、相手の気持ちになって、どう行動すべきかを考えさせる  
聴覚障害のある友人、先輩との交流の場などを積極的に活用し、自己の障害理解を促す  
自立と社会参加のための一貫したキャリア教育(就労に向けた教育)  
同年齢の集団での交流及び共同学習の機会を積極的に設定  
ろう学校との連携(積極的な活用)  
通級指導教室(ことばの教室)・難聴特別支援学級との連携(積極的な活用)  
難聴児童生徒対象のサマーキャンプ、交流会、学習会など  
聴覚障害について、学校の指導場面で教職員・生徒・保護者・地域の理解啓発に努める  
関係機関や外部専門家等(耳鼻科、補聴器店、親の会、聴覚障害者協会など)との連携  
緊急放送を視覚的に知らせる人の動き、避難誘導など、校内体制  
字幕放送を受信することができるシステム(デジタルテレビ)  
行事の進行次第や、挨拶文、劇の台詞などが文字で投影できるシステム  
机・椅子の脚へのノイズ対策のための使用済みテニスボールの利用  
絨毯・畳の指導室  
防音・遮音式の個別指導教室や通級指導教室

(7) その他、中学生の時に必要だと思う支援があれば、教えてください。

(8) 中学校在学中に保護者であるあなたが困ったこと等あります／したか。また、どんなことに困りましたか。(複数回答可)\*

困ったことはない  
困っていたか覚えていない  
担任の理解がない／なかった  
友達の理解がない／なかった  
授業だけでは分からないので、他で学習する必要がある／あった  
友達とコミュニケーションがとれず、トラブルが多い／多かった  
休み時間や放課後、雑談が分からず孤立している／いた  
家庭内でコミュニケーションがとれず、孤立している／いた  
部活動に参加の制約がある／った  
その他...

(9) 中学校在学中に要望したいことはありますか。(複数回答可)\*  
要望はない

聴覚障害児向けの放課後等デイサービス  
地域の中学校に通う難聴児や保護者への聴覚障害に関する情報提供  
難聴学級在籍生徒の交流学級での学習時間や体制は、柔軟に対応して欲しい  
通級指導教室での学習内容は、柔軟に対応して欲しい(教科学習の補習等)  
専門知識のある教員の育成と増加  
難聴児が在籍する全ての中学校で専門家(ST等)の支援を受けられるようにしてほしい  
専門家の支援のもとで、難聴(聴覚障害をもっている)の生徒が集まる機会・行事  
学習塾が聴覚障害を理解して、情報保障等柔軟に対応してほしい  
オンラインでの個別・グループ指導  
その他...

7 高校入試について伺います。

高校の説明会で事前に入学を断られたり、特別な配慮はしないと言われたという事例があります。高校入試について回答をお願いします。

お子さんは高校生以上ですか。\*

中学生  
高校生以上

高校入試についての質問

(1) 高校受験をしましたか。\*

した  
しない(受験はせずに高校に進学した)  
高校に進学しなかった

(2) 事前の学校説明会について伺います。(複数回答可)\*

学校説明会に行かなかった  
学校説明会で健聴の受験生と同じ対応だった  
学校説明会で十分な説明を受けることができ、入学後の合理的配慮について話し合った  
学校説明会で、入学後特別な配慮はしないと言われた  
入学を断られた  
その他...

(3) 高校入試について伺います。(複数回答可)\*

配慮があることを知らず、なにも配慮をされなかった  
配慮を依頼したが、なにも配慮をされなかった  
事前に申請をして、リスニングテストで配慮を受けた  
試験中の指示等について配慮してくれた  
その他...

(4) 高校に入学する際に、事前にお子さんのためにおこなったことがありましたら、記入してください。

8 お子さんが高校生以上の方に伺います。

(1) お子さんを通して／いた高校について伺います。\*

公立高校  
公立高校と通級指導教室  
私立高校(通学制)  
私立高校(通信制)  
ろう学校の高等部  
その他...

(2) お子さんが困った時に保護者であるあなたは誰に相談します／しましたか。(複数回答可)\*

困ったことはない  
相談する相手がいない／いなかった  
困っていることを知らない／知らなかった  
高校(高等部)の担任  
高校(高等部)の特別支援コーディネーター・教育相談担当者  
高校(高等部)の進路担当者  
保健室の先生(養護教諭)  
医療機関の担当者  
部活動の顧問  
親の会の相談担当者  
難聴児を持つ親(ママ友・パパ友、先輩ママ・パパ)  
その他...

(3) 個別の教育支援計画について知っていますか。\*

知っている  
知らない

(4) お子さんへの必要な支援(合理的配慮等)についてクラス担任や特別支援コーディネーターと話し合いましたか。

話し合った  
話し合っていない

(5) 高校生のときに受けている／受けた支援について伺います(複数回答可)。\*

あなたのお子さんに支援は必要だった  
あなたのお子さんに支援は必要ない  
支援は受けていない

必要な支援が分からない  
支援を受けていたが、その内容まではわからなかった  
その他...

(6) 高校のときに受けている／受けた支援についてお答えください。また、支援を受けたか否かにかかわらず、特に必要だと思う支援はどれですか。(複数回答可)  
この質問の支援内容については、文部科学省の「合理的配慮」の観点(聴覚障害)を参考にして作成しているため、項目数が大変多くなっておりますが、現状把握のために御協力をお願いします。

受けた 特に必要なだと思う

教師の話聞きやすい座席の位置  
字幕放送(ビデオ)などの活用  
PCなどを活用した情報保障の活用  
行事などにおける進行次第や、挨拶文などが文字で投影できるシステムの整備  
聴覚障害の状態に応じたコミュニケーション手段の選択と活用  
周囲の生徒に聴覚障害の理解啓発を促すための指導  
聴覚に障害のある生徒同士の交流の場や機会の確保  
外国語のヒアリングなどにおける音量調整・学習室の変更・文字による代替問題の用意  
話合いの内容を確認するため書いて提示し読ませる  
慣用句など言葉の表記と意味が別の言いまわしになる言葉の取り立て指導  
分かりやすい板書  
授業の流れが分かるワークシートなどの準備  
授業の要点をプリントにしたものを提供  
ノートテイク・パソコン要約筆記  
講演会や行事等の手話通訳  
教師やクラスメイトによる多様なコミュニケーション手段の使用  
話者の音量調整  
防音などに配慮した教室環境の提供  
集会や授業などでのマイクなどの使用  
教室前のスクリーンでのライブ字幕表示  
必要に応じて補聴援助システム(ロジャーやFM補助機器、磁気ループ)などの使用  
ドアの開閉音など、他者が迷惑に感じることなどの指導(気づきにくい音を知らせる)  
個別指導場所の確保  
運動競技でホイッスルの警告音を、手旗やライトなどで視覚的に表示  
相手に応じて伝わりやすいコミュニケーション手段が使える力の育成  
情報を伝え、それまでの流れなどから物事を総合的に判断する経験を積ませる  
実際の場面を想像し、相手の気持ちになって、どう行動すべきかを考えさせる  
聴覚障害のある友人、先輩との交流の場などを積極的に活用し、自己の障害理解を促す  
自立と社会参加のための一貫したキャリア教育(就労に向けた教育)  
就職に関する相談  
ろう学校との連携(積極的な活用)  
難聴児童生徒対象のサマーキャンプ、交流会、学習会など  
聴覚障害について、学校の指導場面で教職員・生徒・保護者・地域の理解啓発に努める  
関係機関や外部専門家等(耳鼻科、補聴器店、親の会、聴覚障害者協会など)との連携  
緊急放送を視覚的に知らせる人の動き、避難誘導など、校内体制  
字幕放送を受信することができるシステム(デジタルテレビ)  
行事の進行次第や、挨拶文、劇の台詞などが文字で投影できるシステム  
机・椅子の脚へのノイズ対策のための使用済みテニスボールの利用  
絨毯・畳の指導室  
防音・遮音式の個別指導教室や通級指導教室

(7) その他、高校生の時に必要だと思う支援があれば、教えてください。  
(8) 高校在学中、保護者であるあなたが困ったこと等あります／したか。また、どんなことに困りましたか。(複数回答可)\*

困ったことはない  
困っていたかどうか分からない  
担任の理解がない／なかった  
友達との理解がない／なかった  
授業だけでは分からないので、他で学習する必要がある／あった  
ノートテイク等がなく、授業の内容がわからない／わからなかった  
友達とのコミュニケーションがとれず、トラブルが多い／多かった  
休み時間や放課後、雑談が分からず孤立している／いた  
家庭内でコミュニケーションがとれず、孤立している／いた  
部活動に制約がある／あった  
その他...

(9) 高校在学中に要望したいことはありますか。(複数回答可)\*

要望はない  
聴覚障害児向けの放課後等デイサービス  
ろう学校以外の高校に通う難聴児や保護者への聴覚障害に関する情報提供  
高校でも通級指導を受ける機会が欲しい  
通級指導教室等で教科学習の補助をして欲しい  
専門知識のある教員の育成と増加

視覚的情報保障をしてほしい  
専門家の支援のもとで、難聴(聴覚障害をもっている)の生徒が集まる機会・行事  
オンラインでの個別・グループ指導  
その他...

お子さんは高校在学中ですか  
高校在学中  
卒業した  
その他...

10 お子さんが高校卒業・中退後の進路について伺います。  
高校卒業・中退直後の進路を選んでください\*

就労  
専門学校  
短期大学  
大学  
職業訓練校  
ろう学校の専攻科  
筑波技術大学・筑波技術短期大学  
その他...

11 進学された方に伺います。

(1) 大学や専門学校等の入試やオープンキャンパスについて伺います。(複数回答可)\*

説明会などには行かなかった  
健聴の学生と同じ対応だった  
学生支援室の担当者等と十分な話し合いをし、入試や入学後について相談ができた  
入試や入学後に申請した配慮を受けられた  
入試や入学後に特別な配慮はしないといわれた  
入学を断られた  
その他...

(2) 大学・専門学校に入学する際に事前に行ったことがありましたら、記入してください。

(3) 大学や専門学校等でお子さんが困った時、お子さんは誰に相談します/しましたか。(複数回答可)\*

困ったことはなかった  
相談する相手がいなかった  
困っているがわからなかった  
担当の教員  
学生支援室の担当者  
障害学生支援室の担当者  
医療機関の担当者  
親やきょうだい  
健聴の友人や先輩  
難聴の友人や先輩  
その他...

(4) あなたは、お子さんへの必要な支援(合理的配慮等)について、大学や専門学校の担当者と話し合いましたか。  
.\*

話し合った  
話し合っていない  
子供だけが話し合った

(5) 大学や専門学校のときの支援について伺います(複数回答可)。

支援は必要  
支援は必要ない  
支援は受けていない  
必要な支援が分からない  
支援を受けていたが、その内容まではわからなかった

(4) 大学や専門学校等で受けている/受けた支援についてお答えください。また、支援を受けたか否かにかかわらず、特に必要だと思う支援はどれですか。(複数回答可)

この質問の支援内容については、文部科学省の「合理的配慮」の観点(聴覚障害)を参考にして作成しているため、項目数が大変多くなっておりますが、現状把握のために御協力をお願いします。

受けた 特に必要なだと思う

教員の話聞きやすい座席の位置  
PCなどを活用した情報保障の活用  
字幕放送(ビデオ)などの活用  
行事などにおける進行次第や、挨拶文などが文字で投影できるシステムの整備  
聴覚障害の状態に応じたコミュニケーション手段の選択と活用  
周囲の学生に聴覚障害の理解啓発を促すための指導  
聴覚に障害のある学生同士の交流の場や機会の確保  
外国語のヒアリングなどにおける音量調整・学習室の変更・文字による代替問題の用意  
話し合いの内容を確認するため書いて提示し読ませる  
慣用句など言葉の表記と意味が別の言いまわしになる言葉の取り立て指導  
分かりやすい板書  
授業の流れが分かるワークシートなどの準備  
授業の要点をプリントにしたものを提供

ノートテイク・パソコン要約筆記

講演会や行事等の手話通訳

教師やクラスメイトによる多様なコミュニケーション手段の使用

話者の音量調整

防音などに配慮した教室環境の提供

集会や講義などでのマイクなどの使用

教室前のスクリーンでのライブ字幕表示

必要に応じて補聴援助システム(ロジャーやFM補助機器、磁気ループ)などの使用

ドアの開閉音など、他者が迷惑に感じることなどの指導(気づきにくい音を知らせる)

個別指導場所の確保

運動競技でホイッスルの警告音を、手旗やライトなどで視覚的に表示

相手に応じて伝わりやすいコミュニケーション手段が使える力の育成

情報を伝え、それまでの流れなどから物事を総合的に判断する経験を積ませる

実際の場面を想像し、相手の気持ちになって、どう行動すべきかを考えさせる

聴覚障害のある友人、先輩との交流の場などを積極的に活用し、自己の障害理解を促す

自立と社会参加のための一貫したキャリア教育(就労に向けた教育)

就職に関する相談

PEPNET-Japan(日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク)の積極的活用

障害学生支援室との連携(積極的活用)

難聴学生対象のサマーキャンプ、交流会、学習会など

聴覚障害について、学校の指導場面で教職員・学生・保護者・地域の理解啓発に努める

関係機関や外部専門家等(耳鼻科、補聴器店、親の会、聴覚障害者協会など)との連携

緊急放送を視覚的に知らせる人の動き、避難誘導など、校内体制

字幕放送を受信することができるシステム(デジタルテレビ)

行事の進行次第や、挨拶文、劇の台詞などが文字で投影できるシステム

机・椅子の脚へのノイズ対策のための使用済みテニスボールの利用

絨毯・畳の指導室

防音・遮音式の個別指導教室や通級指導教室

(5) その他、大学や専門学校在学時に必要だと思う支援があれば、教えてください。

(6) お子さんは大学や専門学校等に在学中、困ったこと等ありましたか。また、どんなことに困りましたか。(複数回答可)\*

困ったことはなかった

困っているか分からなかった

担当教員の理解がなかった

友達の理解がなかった

授業だけでは分からないので、他で学習する必要があった

ノートテイク・パソコン要約筆記等がなく、授業の内容がわからなかった

友達との雑談が分からず寂しそうだった

家庭内でコミュニケーションがとれず孤立していた

その他...

(7) 大学や専門学校在学中に要望したいことはありますか。(複数回答可)\*

要望はない

障害学生支援室による専門的な支援

学校職員や学生への聴覚障害に関する情報提供

聴覚障害に対する専門知識のある教員の育成と増加

聴覚障害者への合理的配慮の実施

専門家の支援のもとで、難聴(聴覚障害をもっている)の学生が集まる機会・行事

視覚的情報保障をしてほしい

その他...

12 お子さんの現在の職業について伺います。

お子さんは就労していますか。\*

一度も就労したことがない

今現在、就労している

以前就労していたが、今は就労していない

その他...

就労についての質問

(1) お子さんの現在の就労形態を選んでください。\*

フルタイム・正規雇用(障害者枠)

フルタイム・正規雇用(一般)

パート・アルバイト・非常勤

自営

無職

休職中

求職中

その他...

(2) お子さんが就職するにあたって困ったこと等ありましたか。また、お子さんが困ったことはなんですか。(複数回答可)\*

困ったことはない

困っていたかわからない  
聴覚障害者としての就職に関する情報がなかった  
聴覚に障害を持っているとなれない職業があった  
手帳を持ってないので障害者枠で就労できなかった  
障害者枠では、業務や待遇に制限がある  
聴覚障害について就職先に知られたいなかった  
相談する相手がいなかった  
聴覚障害について適切なアドバイスを受けられなかった  
職場の体験談等の聴覚障害の先輩の話を聞く機会がなかった

(3) お子さんが休職・転職をされており、その理由が難聴によるものだった方は、差し支えなければ、理由や経緯についてお書きください。

(4) お子さんが職場で困っていると聞いた時、あなたは誰に相談しましたか。(複数回答可)\*

困っている様子はなかった  
困っているかわからなかった  
誰にも相談をしなかった  
相談する相手がいなかった  
お子さんの職場の上司  
お子さんの職場の同僚  
医療機関の担当者  
通園施設のST等  
ろう学校・母校の教員  
ハローワークの担当者  
障害者の就労支援事業所の担当者  
家族  
同じ障害を持った子の保護者である友人や先輩  
親の会等の仲間  
その他...

(5) お子さんの職場での配慮についてご存知ですか。(複数回答可)\*

どんな支援・配慮を受けているかわからない  
業務内容に配慮がある(電話対応はしない等)  
音声文字変換を使用している  
個別に文字情報支援を受けた(UDトークや発表原稿等)  
集会や職場全体で文字情報支援(パワーポイントや字幕)を受けた  
必要な研修会や会議等には、手話通訳を依頼している  
補聴援助システム(ロジャー、FM補聴器)を使用している  
分からないときや重要なことは筆談をしている  
メールやチャットを利用している  
その他...

13 重複障害のお子さんをお持ちの方に伺います。

お子さんに重複障害がありますか\*

重複障害はない  
重複障害がある  
その他...

重複障害

(1) お子さんの難聴以外に併せ持っている障害について伺います。\*

知的障害  
視力障害  
肢体不自由  
内部障害(心疾患・腎疾患など)  
ADHD  
自閉症(ASD)  
学習障害(LD)  
診断は受けていない  
その他...

(2) 重複障害で困ったこと等ありましたか。また、どんなことに困りましたか。(複数回答可)\*

困ったことはなかった  
相談先がわからない  
情報の取得が難しい  
日常生活でコミュニケーションが難しい  
周囲への説明が難しい  
難聴とそれ以外の障害の両方の問題があり保護者の精神的な負担が大きい  
聴覚障害以外の障害に関してかかる費用があり、経済的負担が大きい  
療育施設が限られているため、通園に時間がかかった  
知的・肢体等の特別支援学校を選択すると、聴覚障害への支援が手薄になる  
重複障害者への理解ある医療機関が少ない  
通院する所が複数あり、通院などのスケジュールの調整が大変  
障害が複数あっても個々が軽度な場合、障害者手帳取得時に不利になる。  
重複障害に配慮した保育園・幼稚園・放課後等デイサービス等がない



保育園・幼稚園・放課後等デイサービス等で受け入れを拒否された  
医療ケアのため学校に付き添わなければならない時がある  
重複障害に配慮した就学・就労支援がない  
保護者が復職・就労できない  
その他...

(3) 重複障害に対して必要だと思う支援や要望したいことはありますか。(複数回答可)\*

支援は不要  
必要な支援がわからない  
保護者に対する心理的支援  
学校に重複障害に対応できるような人員体制を整えてほしい  
学校に専門職(言語聴覚士・看護師等)を配置してほしい  
ろう学校で重度の重複障害児も受け入れてほしい  
知的・肢体等の特別支援学校に入学した場合でも、聴覚障害に対応した教育を受けたい  
重複障害児同士・親同士の交流の機会を増やしてほしい  
学校・家庭以外の居場所の支援(児童発達支援、放課後等ディサービス等)  
高等部卒業後の支援  
地方医療の格差を解消してほしい  
重複障害についての情報提供(社会制度・育て方・ロールモデル)  
福祉サービスの充実  
重複障害を総合的に診断・支援できる体制を整えてほしい  
その他...

14 一側性難聴のお子さんをお持ちの方に伺います。両側性の難聴の方は、質問15へお進みください。  
お子さんは一側性難聴ですか。\*

一側性難聴ではない  
一側性難聴である  
その他...

一側性難聴

(1) 補聴器等の福祉の制度は、利用できますか。\*

利用できる  
利用できない  
その他...

(2) 一側性難聴で困ったこと等ありましたか。また、どんなことに困りましたか。(複数回答可)\*

困ったことはなかった  
一側性難聴特有のわかりにくさによって、周囲の人から問題を軽視された  
補聴器の申請の時、行政の担当者が知識がなく、説明をするのに大変だった  
補聴器の補助を受けることができなかった  
聞こえない側から声をかけられても分かりにくい  
日常生活の中でどこから音がするのか分かりにくい  
騒がしいところでは聞き取りにくい  
その他...

(3) 一側性難聴について、必要な支援や要望したいことはありますか。(複数回答可)\*

支援は不要  
必要な支援についてわからない  
社会・行政への啓発をしてほしい  
教育・福祉機関に一側性難聴について正しい知識を持ち対応して欲しい  
医療機関に一側性難聴について正しい知識を持ち対応して欲しい  
一側性難聴の子ども達が集まる機会・行事  
その他...

15 補聴器と人工内耳の助成・課題について伺います。

昨年のアンケートの結果、助成金の地域格差が大きいということがわかりました。地域格差をなくすためのアンケート項目です。

現在の補聴器機の使用状況を一つだけ選んでください。\*

補聴器だけを使用している  
人工内耳だけを使用している  
補聴器と人工内耳両方を使用している  
補聴器や人工内耳を使用していない

(1) お子さんが補聴器を装着している方に伺います。

① 補聴器の助成金について困ったこと等ありましたか。また、どんなことに困りましたか。(複数回答可)\*

困ったことはない  
助成金の仕組みがわからない  
助成や機器についての担当者の知識がなかったので、説明が大変だった  
身体障害者手帳に該当しないため、助成が受けられず自費で購入した  
身体障害者手帳に該当しないため、助成が受けられず購入を諦めた  
新しく購入する時、助成が通らなかった(就学中は通ったが、成人してからは通りにくい。)  
高額で新しい機種への買い替えが難しい  
修理が高額で負担である  
電池購入費は家計の負担である

その他...

②補聴器の電池代は月どのくらいかかりますか。例:1ヶ月 約2,000円\*

③補聴器の助成について、要望等ありましたら、記入をお願いします。(複数回答可)

補聴器の買い替えや電池などの購入にかかる費用の負担を全国一律にしてほしい  
身体障害者手帳のない軽中等度難聴にも、購入費用にかかる負担をなくしてほしい  
その他...

④ 現在補聴器をしてお子さんが生活している中で、困っていることはありますか。またどんなことに困っていますか。(複数回答可)\*

困っていることはなかった  
困っているかどうかわからない  
補聴器について周囲の理解が進んでいない  
補聴器の調整のできる場所が少ない  
補聴器の調整が合わない  
病院・療育機関・学校との連携がとれていない  
病院、療育先の予約がとれないので、通院の間隔が空いてしまって不安  
機器の不具合が生じた時に対応に時間がかかる  
音声を学ぶ環境が少ない  
手話を学ぶ環境が少ない  
最新の補聴器や医療の情報が得られない  
福祉制度についての情報が得られない  
その他...

⑤お子さんは人工内耳も使用していますか\*

人工内耳も使用している  
補聴器のみ使用している

(2) お子さんが人工内耳を装着している方に伺います。

①人工内耳の助成金について困ったこと等ありましたか。また、どんなことに困りましたか。(複数回答可)\*

困っていることはない  
困っているかどうかわからない  
助成や機器についての担当者の知識がなかったので、説明が大変だった  
助成金の仕組みがわからない  
現在住んでいる地域では、電池等購入の助成が得られない  
現在住んでいる地域では、電池等購入の助成額が不十分  
高額で新しい機種への買い替えが難しい  
修理が高額で負担である  
マイクカバーや送信ケーブルなど部品の購入が家計の負担になる  
電池・充電機購入が家計の負担になる  
その他...

②人工内耳の部品代(マイクカバー、送信ケーブル、電池など)は、1年間にどのくらいかかりますか。例:1年 40,000円\*

③人工内耳の助成について、要望等ありましたら、記入をお願いします。(複数回答可)

イヤモールドの助成を補聴器と同等にして欲しい  
人工内耳本体の買い替えの補助金を支給してほしい  
電池などの購入に対する助成額を全国一律にしてほしい  
その他...

④現在人工内耳をしてお子さんが生活している中で、困っていることはありますか。またどんなことに困っていますか。(複数回答可)\*

困っていることはない  
困っているかどうかわからない  
人工内耳について周囲の理解が進んでいない  
マッピングできる施設の数が少ない  
病院・療育機関・学校との連携がとれていない  
病院、療育先の予約がとれないので、通院の間隔が空いてしまって不安  
機器の不具合が生じた時に対応に時間がかかる(代替機の手配やマッピング先が遠い等)  
聴覚活用を十分に学ぶ環境が少ない  
手話を学ぶ環境が少ない  
その他...

補聴器・人工内耳を使用していない

(3) 助成などの課題のために、補聴器や人工内耳をどちらか一方でも使用していない・使用するのをあきらめた方は、その理由をお書きください。

例:経済的な理由、近くで調整が受けられなかったなど

16 日常生活用具費支援対象の見直しについて

(1) 日常生活用具の名称を知っていますか。\*

知っている  
知らない

(2) 日常生活用具で使用しているものにチェックしてください。(複数回答可)\*

使用していない  
聴覚障害者通信装置(FAX)  
聴覚障害者用情報受信装置(文字放送用デコーダー)

携帯用会話補助装置(意思伝達装置)  
屋内信号装置(フラッシュライト・腕時計型のシルウォッチ)  
振動式目覚まし時計  
携帯型双方向無線振動呼び出し機(合図くん)  
会議用拡聴器  
その他...

(3) 現在使用しているコミュニケーションツールやアプリはありますか。(複数回答可)\*

使用していない  
スマートフォン  
タブレット端末  
音声文字変換のアプリ(UDトーク、こえとらなど)  
筆談用のアプリ  
ビデオ通話(LINE・スカイプ)  
電話リレーサービス  
みえる電話(docomo)  
筆談ボード  
字幕透明ディスプレイ  
眼鏡型字幕ディスプレイ  
その他...

(4) 日常生活用具として追加で必要なもの等ありましたら記入してください。

17 デジタル補聴援助システム(ロジャー・ミニマイク・リモートマイク・エデュマイク等)について伺います。

(1) デジタル補聴援助システムを使用していますか。\*

使用している  
知っているが使用していない  
知らない  
その他...

(2) デジタル補聴援助システムはどのように使用していますか。\*

補聴器の片耳のみ使用  
人工内耳の方耳のみ使用  
補聴器の両耳で使用  
人工内耳の両耳で使用  
片耳補聴器、片耳人工内耳で片側のみ使用  
片耳補聴器、片耳人工内耳で両側に使用  
その他...

(3) デジタル補聴援助システムをどのような場面で使用していますか。(複数回答可)\*

療育の時に使用  
幼稚園や保育園で先生がマイクを使用  
学校の授業で担任や授業者がマイクを使用  
職場で使用  
行事・集会などで使用  
グループの話し合いや会議等で使用  
オーディオ機器に接続して、動画などを視聴するために使用  
オーディオ機器に接続して、私的にゲームや音楽等を楽しむために使用  
家庭内で食事の時などに使用  
外出時に使用  
その他...

(4) デジタル補聴援助システムをどのように購入しましたか。(複数回答可)\*

全額自費で購入  
公費で負担(全額)  
公費で負担(一部自費)  
学校から借りている  
職場で購入したものを使用している  
その他...

(5) デジタル補聴援助システムの使用に伴い、困ったことはありますか。また、どんなことに困りましたか。(複数回答可)\*

困ったことはなかった  
使用することを断られた  
使用するといいながら、正しく使用してもらえない  
不具合による修理やクリーニング等のメンテナンスにかかる費用が高額  
受信機が高額のため、1台しか購入できない  
使い方が難しい  
その他...

デジタル補聴援助システムについて「知っているが使用していない」と回答した方のみお答えください。

(6) デジタル補聴援助システムを使用していない理由を選んでください。(複数回答可)\*

経済的な理由で購入できなかった  
自分には不要だと思った  
周囲が使用に協力的ではなかった  
助成の申請をしたが通らなかった

その他...

18 お子さんの聴覚管理について伺います。

お子さんの成長に伴い、自分の障害に向き合うための支援の必要性を把握することを目的とした質問です。

(1) 直近の3年間でお子さんが耳鼻咽喉科で聴力検査を受けたのは何回ですか。\*

やっていない

わからない

13回以上

10から12回

7から9回

4から6回

1から3回

(2) お子さんが現在耳のことで通っている病院は、診断後に通院していた、または訓練・指導を受けていた病院と同じですか。\*

通院していない

同じ病院

遠いため別の病院に通っている

手術や引っ越しのために別の病院に通っている

診断・訓練などは小児の専門病院に通っていたため、成人した今は、別の病院に通っている。

その他...

(3) お子さん自身が、難聴についての説明を受けたのはどこでですか。(複数選択可)

知識を得ていない・わからない場合は回答後に(5)へお進みください。\*

説明を受けていない

説明を受けたかどうかわからない

病院

ろう学校

療育機関

通級指導教室・特別支援学級

保護者

聴覚障害の先輩や友人

本やインターネット、講演会

その他...

(4) お子さん自身が難聴について説明を受けた方に伺います。説明を受けたのはいつですか。(複数選択可)

時期はわからない

保育園・幼稚園の頃

小学校1～3年

小学校4～6年

中学校

高校

高校卒業後

その他...

(5) お子さんが高校生以上の方に伺います。難聴が診断された時に親が受けたような説明を、耳鼻科医や言語聴覚士から、お子さんへもう一度してもらった経験はありますか。

わからない

ある

ない

(6) 社会に出るに当たって、お子さんが自身の障害に関する情報を理解する機会が必要と考えますか。

必要な場合にはどんな情報が必要ですか。(複数選択)\*

わからない

情報を得る機会はない

本人の聞こえについての医学的知識(原因や今後の見通し)

補聴器・人工内耳・補聴援助システムなどについての最新情報

福祉制度の最新情報(デジタル補聴機器への補助・情報保障の要請など)

障害理解に関して必要な心理的支援(専門家や同じ障害を持つ仲間のカウンセリングなど)

今まで受けてきた支援を振り返る機会

その他...

19 大量のアンケートにご協力いただき、ありがとうございました。

他に改善して欲しいことや要望等ありましたら、記入してください。

終了